

いると考えられる。さらに、SMP8-Cre<sup>+</sup>/IL-4Rα<sup>Flox/+</sup> マウスでは Myocd、Rab39b での発現が抑制された。これらの研究成果は気道過敏症の機序の解明、アレルギー抑制薬の開発に繋がるものとして期待できる。

## 5. 当科における食物アレルギー負荷テストの検討

(小児科学) 赤松 信子、鈴木 俊輔、長尾 竜兵  
佐藤 智、牛尾 方信、柏木 保代  
河島 尚志、武隈 孝治、星加 明徳

食物アレルギーの診断、耐性獲得の判定には経口負荷試験が有用である。しかし経口負荷試験はアナフィラキシーをはじめとする副作用出現の可能性もあるため人手と時間を要する検査である。しかし、不必要な食物除去を続けることは児および家族の QOL を考えれば望ましいことではない。当科では日本小児アレルギー学会作成の「食物アレルギー経口負荷試験ガイドライン」を参考に一日または日帰り検査を試行している。誘発症状は軽微なものからアナフィラキシーまで様々であり、現状と課題について検討した。平成22年一月より食物負荷テストを試行した症例を対象に、症状の程度、治療、経過についてカルテより後方視的に検討した。統一した検査計画により比較的スムーズに負荷テストは実施できた。比較的強い誘発症状を呈した症例もあり、年齢並びに既往症等による負荷設定など負荷テストの施行にあたっては注意が必要であると考えられた。

## 6. インフリキシマブ治療によるベーチェット病患者の細胞表面 Toll like receptor の変化

(眼科学) 毛塚 剛司、臼井 嘉彦、馬 娟  
山本 達郎、松永 芳径、松田 隆作  
山川 直之、後藤 浩

【目的】 ベーチェット病の原因は不明であるが、その発症に溶連菌などの細菌感染の関与を示唆する報告がみられる。今回我々は、抗ヒト TNFα 抗体であるインフリキシマブ投与前後における末梢血単核球の細胞表面マーカーを解析し、本剤の奏功メカニズムについて検討した。

【対象と方法】 難治性網膜ぶどう膜炎を有するベーチェット病患者で、十分なインフォームドコンセントを得られた11例を対象とした。インフリキシマブ投与前と投与2週間後に採血を行い、単核球を分離して CD14<sup>+</sup> 細胞上 toll like receptor (TLR) 2 および 4 の発現を FACS で解析した。また、分離した単核球の一部は auto MACS を用いて CD4<sup>+</sup>T

細胞に単離し、細胞内サイトカイン (IFN-γ、IL-10、IL-17) を FACS で解析した。

【結果】 インフリキシマブ投与により、11例全例で眼炎症発作の頻度が減少した。CD14<sup>+</sup> 単核球表面上 TLR4 の発現は11例中10例で低下し、TLR2 の発現は11例中8例で低下した。細胞内サイトカインは個々の症例で様々なパターンを示し、一定の結果を得ることはできなかった。

【考按】 今回測定した CD14<sup>+</sup> 単核球表面上の分子である TLR は、エンドトキシンに対する受容体であり、インフリキシマブ投与により TLR を介したエンドトキシンの感受性が低下している可能性がある。

【結論】 インフリキシマブ投与によるベーチェット病治療により、末梢血単核球における TLR の発現が低下する。

## 7. 乾癬患者に対するアダリムマブとインフリキシマブの臨床的効果と QOL の検討

(皮膚科学) 林 和人、大久保ゆかり、阿部名美子  
藤城 幹山、松本 由佳、夏目 尚子  
若松加奈恵、近藤 由佳、三橋善比古  
坪井 良治

アダリムマブ (ADA) とインフリキシマブ (IFX) の2つの抗 TNFα 抗体製剤が本邦で初めて乾癬に適応となり、中等症および重症の乾癬患者に対する乾癬治療薬の選択肢が広がった。

当院通院中の中等度以上の乾癬患者17名を対象に、これら2つの抗 TNFα 抗体製剤 (ADA 8例、IFX 9例) を投与し、乾癬に対する臨床的効果を検討した。患者背景は、男性13名、女性4名で平均罹病期間は18年4か月であった。病型は、尋常性乾癬 (PV) 12名、膿疱性乾癬 (GPP) 5名で、投与前の平均 PASI スコア (Psoriasis area and severity index) は18.6、平均 BSA (Body surface area) は37%であった。PASI スコア・BSA・患者アンケート (DLQI、外用薬塗布回数、塗布時間、患者満足度) により皮膚症状並びに QOL の評価を行った。一部の患者では血清サイトカインの測定と病理組織学的検討も行った。投与4か月後には PV で、平均 PASI スコアは19.8が4.0に、平均 BSA は35.3%が8.3%と改善した。GPP では、平均 PASI スコアは15.8が4.3に、平均 BSA は41.6%が20.5%と改善した。また、DLQI、外用薬塗布回数、塗布時間、患者満足度の改善も認めた。両製剤は、PV や GPP に有効であり、現在、継続投薬中である。